

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 鉾田市立旭北小学校 】

| | |
|--------------------|--|
| 1 実践テーマ | I・II・V |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 1学年13名 2学年13名 3学年 7名 4学年10名 5学年16名 6学年12名 職員 12名 合計 83名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (学級活動) ② 行事名 (オリンピアンとの交流会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () |
| 4 目標 (ねらい) | ○ オリンピアンのお話を聞くことを通して努力することや感謝の気持ちをもつことの大切さを学び、これからの人生に生かそうとする態度を育てる。 ○ オリンピック・パラリンピックの意義や歴史、それに携わる人々の努力を知ることによってスポーツへの興味・関心の向上を図る。 |
| 5 取組内容 | I オリンピック・パラリンピックを知ろう 1 期日 令和3年7月 2 内容 夏休みに入る前に各学年の学級活動で「東京オリンピック・パラリンピック」について、その意義や歴史、ボランティアの活動などについて関係資料等を用いて学習した。 II オリンピアンとの交流会 1 期日 令和3年12月8日(水) 3・4校時 2 講師 鹿島アントラーズ 中田浩二さん 3 内容 ① 講演「夢に向かってチャレンジすること」 ・幼少からの生い立ちとオリンピックに出るまでの努力の軌跡 ・サッカーを通して学んだことや人との関わり ・外国生活での語学勉強や引退後に大学院で学んだこと ・児童からの質問タイム |



② デモンストレーション

- ・中田さんによるリフティングの披露と代表児童とのパス交換



③ レクレーション

ア 低学年「シippo取りゲーム」



イ 中学年「ドッジボール」



ウ 高学年「ミニサッカー」



エ 学年ごとの記念撮影



○ 交流会は児童の司会で進行した。

○ 交流の様子については、学校通信やホームページで保護者や地域に発信した。

| | |
|--------------------------|---|
| 6 主な成果 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自国で開催されるオリンピック・パラリンピックに興味・関心をもつことができた。映像視聴などを通してオリンピックの技術だけでなく、チームワークの大切さやこれまでの努力、家族との関わりなど多くのことを学ぶことができた。 ○ 中田さんの講演を聞いて、自分の夢や目標に向かうために努力することやあきらめないことの大切さを学んだ。 ○ 交流会の翌日が持久走大会であった。全員が自分の力を出し切ろうとする姿が顕著に表れ、全員が完走した。 ○ 持久走大会前後に借りた施設の清掃活動を行った。感謝の気持ちをもって意欲的に活動することができた。 |
| 7 実践において工夫した点 (事業の特色) | <ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピアンを招聘するにあたって、児童の興味・関心を高めるため、これまでも交流機会のあった鹿島アントラーズにお願いして講師を紹介していただいた。 ○ 交流会では、講演だけでなく全員が中田さんと触れ合える時間を設定し、オリンピックを身近に感じられる活動を行った。 ○ 本校の行事である「持久走大会」と「なわとび大会」の直前に交流会を開いたことで、大会や練習に向けて児童の意欲向上が見られた。 |
| 8 主な課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 講師の選出に関して学校が主体となって招聘することと、講師が多忙で講演までのスケジュール調整が難しかった。 ○ 9月が臨時休校となり、オリンピック・パラリンピックについて話し合う活動の時間が取れなかった。 ○ パラリンピック種目である「ボッチャ」の用具を一昨年度購入したが、定期的な活動を進めることができなかった。 ○ 交流会は、地域の方や保護者を招待して行いたかったが、新型コロナウイルス感染防止のため参加していただくことが叶わなかった。 |
| 9 来年度以降の実施予定 | <ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピアンに限らず、地域に在住するスポーツ選手や元選手を学校に招聘し、児童と交流することで体力・技術及び精神力の向上と生涯に渡るスポーツライフの礎を作っていきたい。 ○ パラリンピック種目の経験を通して、障害者の理解と身近な家族や友だちを大切にしようとする心を育みたい。 |